

令和3年1月15日/毎月1回15日発行

医師と医師会を結ぶ情報紙

都医 NEWS

Vol. 659

年頭所感	01
底流/地区医師会長連絡協議会報告	02
東京都医師会 定例記者会見 ほか	03
東京在宅医療塾	
令和2年度城北地区医師協議会	04
みどりの広場 ほか	05
都医からのお知らせ ほか	06
地区医師会長からの一言	07

発行所 ■ 公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■ 1部70円(税別)



東京都や日本医師会と連携し、ポストコロナへの展望を開く



公益社団法人東京都医師会 会長 尾崎 治夫

どのような年を迎えるのだろうか、新年会、忘年会は…

この原稿を書いている今、とても「皆さん明けましておめでとうございませう」といった気分にはなれないでいます。第3波が国中を襲い、特に北海道、首都圏、中部圏、近畿圏の大都市圏を中心に新型コロナウイルスの感染者数が増え、今までにない勢いで増えている状況です。飲食店の時短要請や「Go To イート」の一時停止が3週間にわたって行われているなか、忘年会、新年会をやりたくても、今年ばかりは見送ろうかという声が目立ち、区切りがつかないまま、不安な新年の幕開けになるのでしょうか。

しばらく続くウィズコロナ

少なくとも新しい年の前半は「ウィズコロナ」のなかで迎えることになりそうです。第3波はいっ収束するのでしょうか。ワクチンの実用化には光が見えてきましたが、まだまだハードルが高い面も残されています。重症化予防の薬はどうでしょう。トランプ大統領に投与されたという抗体治療薬はどうなのでしょう。

ワクチンと重症化予防の薬に、さらに光明が見えてくれば、かなり違った展開になるものと思えますが、一般の人たちに使われる前に、思わぬ副作用や副反応があったり、ワクチンについては中和抗体がいつまで持続するのか、また、保管の問題をクリアしなければならぬなど、課題は山積んでいます。

東京オリンピック・パラリンピックの開催

ワクチンや薬に頼れないとなると、感染者をいかに見つけ出し隔離していくか、あるいは高齢者に感染が及ばないようにロックしていくかが大きな課題となるでしょう。第3波を経験している今、クラスター対策のみでは限界が見えてきました。感染者が社会に満遍なく広がることも、無症状者が多く存在し、発症前から感染力を持つという厄介な特徴がある新型コロナウイルス

7月には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開かれる予定です。政府は人類が新型コロナウイルスに打ち勝った証として開催すると言っていますが、打ち勝つための7月までの具体的なロードマップは全く示されていません。国民皆が強く想え

ポストコロナへの展望は開けるか

ば打ち勝つと思っているのでしょうか。たとえ日本で奇跡的に打ち勝つことができたとしても、世界中の国々の状況はあと半年で好転するのでしょうか。不透明さが多く残るなか、こうした形で制限してやればできるかもしれないといった、現実的な解決策を模索していくべきではないでしょうか。コロナ禍での開催は、この形でもよいかないという提案が必要だと思えます。

特に医師会は、日本医師会や東京都医師会に限らず、多くの医師会の活動がマスコミに取り上げられ、その活動が大変重要であることを、多くの国民が理解したと思えます。この発信力を生かして、今後は本来の地道な医師会活動がなんであるかを国民・都民に示しながら、しっかりとした医療体制を作るために、日本医師会と連携しながら活動していく必要があります。

一方、首都東京を守る医師会として、車の両輪である東京都との連携をさらに強めながら常に先進的な対策を打っていくことを目標に努めてまいります。本年をよろしくお願ひ申し上げます。



謹賀新年

令和3年、辛丑(かのと・うし)。牛は、古くから家畜として人間と共にあり、農作業などを助けてくれた動物。その忍耐強さが表れているように、丑年生まれには、粘り強く努力家でマイペースな人が多いと言われる。辛丑の「辛」は、草木が枯れ次の世代に

種を残そうとしている状態を表す。「丑」は逆に、発芽直前の曲がった芽が種の硬い殻を破ろうとしている状態で、命の息吹を表す。辛さに悩みながら衰退しても、新たな芽吹きもあるということ。牛のように忍耐強く困難を乗り越え、ポストコロナの明日を待ちたい。

底流

新型コロナウイルス 感染拡大における 『外国人対応医療の課題』

外国人が感染症に関する医療情報を的確に共有できる体制作りと具体的な医療提供体制の構築が求められている。

突然のパンデミックで訪日外国人は激減したが、渡航制限の緩やかな解除のもと、ビジネストラフィックは拡大傾向にある。一方、多くの在留外国人はこれまで通り日本で経済活動を続けている。情報が錯綜する現況で、外国人が感染症に関する医療情報を的確に共有できる体制作りと具体的な医療提供体制が求められている。

令和2年4月に日本医師会、外国人に対する医療支援の一環としてAMD A国際医療情報センター新型コロナウイルス感染症多言語相談窓口事業に協力、コロナ禍における外国人対応医療の実態把握と、電話相談窓口の必要性を検討した。

相談者は55カ国に及び、「新型コロナウイルス感染症の症状がある」という相談が半数近くを占め、医療通訳の要請、生活上の不安、公的な助成金

に関する事など相談は多岐に渡った。東京の在留外国人の居住地は地域特性があり、生活習慣や宗教上の理由、利便性で都内の各地でコソニーが形成され、それぞれの文化を守りながら地域の経済活動の一端を担っている。しかし、感染拡大に伴う自粛により社会生活は制限され、特に飲食業界に従事する非正規雇用者など生活に困窮する外国人も少なくない。

厚労省はホームページで、外国人に対し多言語で新型コロナウイルス感染症に関する情報や労務関係、休業支援や給付金の情報を提供しており、東京都は『東京都外国人新型コロナ生活相談センター(TOCCOS)』を設置している。

外国人がPCR検査を受ける機会や医療機関を受診するケースが増加するなか、感染予防の立場から通訳者や家族の立ち合いが難しく、インフォームドコンセントに苦渋する場面も多々みられる。東京都医師会では、都内の医療機関には医療賠償に付帯された電話医療通訳サービスや東京都の医療機関向け緊急通訳サービスの利用を推奨している。また、順天堂大学は定型

的な日本語を「やさしい日本語」に置き換える取り組みをしており、動画『新型コロナウイルス検査編』を公開している。

訪日外国人の増加に向けて、PCR検査・抗原検査の精度管理や世界基準、また渡航者の出入国前後の検査結果や行動履歴の情報共有が可能な「コモンパス」など、世界共通の電子証明書の活用も検討事項だ。訪日外国人の新型コロナウイルス感染症に係る医療費に関してダイヤモンド・プリンセス号の事例が報道されたが、今後、財政的に公費負担を継続することは難しい。入国時の民間医療保険加入の義務化、さらに感染症法の再検討も早急に求められている。

地区医師会からの報告

- ① 中央ブロック
- ② 城東ブロック
- ③ 城西ブロック
- ④ 城南ブロック
- ⑤ 城北ブロック
- ⑥ 多摩ブロック

① 予防接種の無料接種について (練馬区医師会)
 ② 若年層健診の対象年齢の拡大について (武蔵野市医師会)
 ③ 健診事業 (若年層・特定健診・後期高齢者健診) の健診期間の延長について (武蔵野市医師会)
 ④ 子ども医療費助成の拡充について (対象年齢の拡大) (武蔵野市医師会)
 ⑤ 「武蔵野市へらし地域応援券」事業について (武蔵野市医師会)
 ⑥ COVID-19対策のWEBセミナー開催と動画配信について (八王子市医師会)
 ⑦ 大学ブロック
 ◎ 出席者による意見交換
 ◎ その他
 (1) 令和2～3年における年末年始の休日薬局支援に対するお願い (品川区医師会)
 (2) 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の状況について (練馬区医師会)
 (3) 新型コロナウイルス感染症等対策に関する広報活動について (練馬区医師会)

地区医師会長 連絡協議会報告

令和2年12月18日(金)

◎ 都医からの伝達事項

- (1) 年末・年始の発熱患者などの診療体制確保に関する通知の発送について
東京都より診療・検査医療機関に対し、「東京都年末
- (2) コロナ・インフルエンザWEBシステム構築のお知らせおよび協力をお願いについて
新型コロナウイルス感染症
- (3) 令和2年度東京都医師会予防接種講演会の開催について
例年開催している予防接種講演会を1月に予定している。テーマは新型コロナウイルススワクチンについて。各地区医師会1名の出席をお願いしたい。
- (4) 令和2年度第2回東京JMAT研修会の開催について
2月23日(火・祝)午前9時から東京都医師会館で標記研修会を開催する。災害医療チームは医師だけでなく、看護師、事務等も含めて構成

2020年12月11日 朝日新聞都内版掲載

新型コロナウイルスの感染拡大が続いている今、子どもの健康はどうやって守れば良いのか。子どもの定期ワクチン接種や健康診断などの受診を控えている子育て世代に向けて、今、小児科医が伝えたいことを朝日新聞デジタルで公開している。



蛭川有紀「Androgynous - いつも一緒に -」

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、多くの企業・団体のみならず、個人のみならずから寄附や支援物資をいただいております。みなさまの温かいご支援、ご厚情に心より感謝申し上げます。

東京在宅医療塾

新型コロナウイルス感染症対策
特別講演会



講師の佐々木理事長

ID-19 これまで、そして散型旅行の推進、財政面で「これからの」と題し、講演を収録したビデオが映し出された。我が国のク

平成29年から始めた東京在宅医療塾は、座学と実習による集合研修として、これまで3期、それぞれ約60名が学習に参加していた。4期目の今年にはコロナ禍のため閉塾中であつたが、在宅医療に特化したコロナ対策についての講演会を11月29日(日)に東京都医師会館およびウェブ上で開催し、多くの参加があつた。



オンライン会議システムを使い講演した蘆野代表理事会長



尾身会長のビデオ収録による講演

あること、検査総数は欧米より少ないが、一人の感染者を見つかるための検査数は欧米よりむしろ多いこと、検査数を増やしただけでは感染者数を減らすことはできないこと、ブルームバーグが発表したCOVID-19(耐性)は、世界第2位(1位はニュージーランド)であることを説明した。また、感染者をこれ以上増やさないためには①飲食店の営業時間の短縮、②地域の移動に係る自粛、③Go To キャンペーン事業の運用見直し、④これまでの取り組みの徹底(年末年始の休暇を分散すること、小規模分

令和2年度

城北地区医師協議会



ウェブ会議の様子

11月4日(水)、令和2年度城北地区医師協議会がウェブ会議で開催された。東京都医師会から7名、城北4区から14名が出席した。尾崎治夫会長は挨拶の中で「会員の皆様の協力により、唾液を用いたPCR検査等の実施医療機関数が目標の1400カ所を超え、身近な所で検査が行えるようになった。4地区での新型コロナウイルス対策や新病院建設の動向などを伺い、東京都医師会ができることを考えていきたい」と述べた。

続いて各地区医師会長より挨拶があつた。増田幹生北区医師会長は、2月からPCRセンター、発熱外来、インフルエンザワクチン等の課題に取り組んでいるが、医療側から正しい情報を発信していくことの重要性を感じていると述べた。齋藤英治板橋区医師会長は、インフルエンザと新型コロナウイルスの鑑別や、年末年始の休日診療、医師会の行事等が今後どのように進めていくかが課題だと述べた。平井貴

語った。講演2は、多くの在宅患者を診療している医師の立場から、佐々木淳医療法人社団悠翔会理事長が「在宅医療の現場における取り組み」と題して行った。新型コロナウイルスに対する在宅医療のミッションは、生命を守る、生活を守る、尊厳を守る、地域医療を守るの4つについて、在宅医療だからできること、病院でなくてもできることを継続的に実行することにあると述べた。講演3は、「日本在宅医療連合会からの指針・提言」と題し、蘆野吉和同学会代表理事会長/山形県庄内保健所長がオンライン会議システムを用いて山形から講演を行った。日本在宅医療連合会が作成したQ&Aをもとに在宅医療における新型コロナウイルス感染症対応などについて解説した。平川博之副会長は、来年度もまた何らかの形で東京在宅医療塾を行うことを約束し、閉会の辞とした。

154 みどりの広場

訪日外国人観光客
コロナ対策プロジェクト
チームについて

参議院議員 自見はなこ



実験等について、東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学教授の宮地勇人先生から「国内PCR等検査の精度管理と国際的な現状と方向性」をテーマに検査精度の信頼性担保について、それぞれ講演いただいたほか、経産省から

東京都医師会の先生方におかれましては、平素より温かいご理解とご支援を賜り、深く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症の感染者数がまた増加傾向に転じ、予断を許さない情勢が続く中、最新線で医療提供体制を支えていらっしゃる先生方に心からの感謝を申し上げます。

とを確認しました。菅総理大臣は、会談後の記者会見で、観客の参加を想定して計画を進めていると表明し、大会を「人類がウイルスに打ち勝った証」にする決意を語りました。私も、その一翼を担うべく、全力を尽くす所存です。

から島崎美奈子理事にオプザーバーで参加いただいております。貴重なご意見を、ご指摘を頂戴していることにも、深く感謝申し上げます。



11月26日 武見参議院議員とともに小池知事を訪問

の新型コロナウイルス対応医療機関の課題と「支援策」をテーマに、多言語対応や未収金対応を個々の医療機関任せにせず、制度として支援する体制の重要性をご講演いただきました。第4回は、観光業、宿泊業、飲食業における外国人観光客受け入れに向けて、課題について、

日本旅行業協会、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会、日本ホテル協会、日本旅館協会、全日本シティホテル連盟、日本フードサービス協会から現場のお声を伺いました。

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

11月16日、IOCのバッハ会長が菅義偉総理大臣と会談し、2021年の東京オリンピック・パラリンピック開催実現に向けて連携していくことを確認しました。菅総理大臣は、会談後の記者会見で、観客の参加を想定して計画を進めていると表明し、大会を「人類がウイルスに打ち勝った証」にする決意を語りました。私も、その一翼を担うべく、全力を尽くす所存です。

今回は、前号で発足のご報告をさせていただいた自由民主党政務調査会「訪日外国人観光客コロナ対策プロジェクトチーム(P.T)」の経過についてお話しさせていただきます。P.Tには、東京都医師会

から島崎美奈子理事にオプザーバーで参加いただいております。貴重なご意見を、ご指摘を頂戴していることにも、深く感謝申し上げます。

医療費等総費用2億8843万円のうち、全体の96%が日本の公的医療保険において保険診療対象となる費用であり、さらにその98%(2億7219万円)が公費請求されていたことなどを報告いただきました。また、査証発給やCIQ(税関・出入国管理・検疫)の業務フローについて、

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

目黒区には東山貝塚遺跡、土器塚遺跡などの遺跡や宮野家屋敷を始めとする史跡、また旧前田家の前田利為侯爵駒場邸跡である駒

この公園は、春には桜が美しく、夏は木陰で涼むことができ、秋はイチョウやモミジの紅葉を楽しめ、冬の雪景色も風情があります。

江戸時代には豊後の函藩のお屋敷があり、溜や池まである回遊式庭園は江戸の名所でした。明治時代になって、西郷隆盛の弟である西郷従道がこの土地に洋館と和館を建てました。当時も素晴らしい庭園として広く知られ、明治天皇も訪れたよう

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ



菅刈公園

古くから知られる名園を復元

趣味の散歩

この公園は、春には桜が美しく、夏は木陰で涼むことができ、秋はイチョウやモミジの紅葉を楽しめ、冬の雪景色も風情があります。江戸時代には豊後の函藩のお屋敷があり、溜や池まである回遊式庭園は江戸の名所でした。明治時代になって、西郷隆盛の弟である西郷従道がこの土地に洋館と和館を建てました。当時も素晴らしい庭園として広く知られ、明治天皇も訪れたよう

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

その後、11月25日には、参議院予算委員会にて質問に立ち、前回(都医ニュース658号)ご説明させていただいた①PCR等検査の陰性証明、②アプリを活用した入国後の14日間の健康報告義務、③民間医療保険の義務的加入、これら3つを入国の条件とすることについて田村憲久厚労大臣、上川陽子法務大臣、茂木敏充外務大臣、平井卓也デジタル担当大臣にそれぞれ質問し、各大臣から重要な提案としてしっかり受け止める旨のご答弁をいただいたほか、橋本聖子五輪担当大臣にも五輪開催に向けた決意を伺い、「安心して安全な大会を必ず実現させる」と力強いご答弁をいただきました。そして最後に、菅総理大臣への質問として、オリンピック・パラ

知っていますか?

ベイズの定理

統計において、結果から原因を求めることができることを数学的に保証する定理。新型コロナウイルス感染症のPCR検査の有効な使用方法を数学的に論じることができ、これにより流行初期からの医師の絞り込みなしの検査導入や、一度陰性が出たからといって再検査を怠る行為の危険性を証明するものである。



11月25日 参議院予算委員会

無声拝聴

意見書の目的

「弁護士ですが、亡くなった〇〇様の主治医意見書を開示していただけませんか」と唐突に電話があった。突然のことで対応にしばし戸惑った。その方には、2年前前に特別養護老人ホームを利用された際に主治医意見書を作成した経緯があった。家族内の財産分与の件でもめている記憶がよみがえった。意見書が裁判の資料にされるのは心外であると思いつき、「お断りいたします」と電話を切った。

1カ月程経過して、この件で区長の名前で開示請求の書類が届いた。期日までに承諾がなければ開示するという内容だった。そこで、意見書の目的について改めて考えてみた。介護認定は、介護保険法に基づき、全国一律の基準で公平・公正に行われる。区市町村が住民から認定の申請を受けると、保健・医療・福祉の学識経験者から構成される合議体で介護認定審査が行われる。審査会において主治医意見書は「身体上又は精神上の障害の原因である疾病又は負傷の状況」についての情報提供として

利用される。主治医意見書は介護認定の判定の際に必要な資料となるので、私は協力している。今回は、区市町村の開示請求手続きを経て申し込まれたが、該当する意見書の写しと、開示請求の文面の中に少なくとも意見書を利用する目的と、目的以外に使用しないことを確認する記載が必要だろう。精神上の障害において、認知症の判定は難しい問題が含まれる。成年後見人制度の活用も必要と感じた。

(進士雄二)

パンデミック ~その闘いの現在地~

我々は今、ペストやスペイン風邪のように人類の長い歴史に刻まれるパンデミックという大きな波の中にいる。新型コロナウイルスは、世界中の国を次々と巻き込み、各国の経済や生活にも大きな影響を与えている。

このウイルスは、肺胞上皮細胞の「ACE2」を受容体とするため、極めて容易に肺炎を発症させる。また、心臓、腎臓、腸管、血管内皮細胞などにもACE2受容体は存在するため、多臓器に影響を与え、サイトカインストームや血栓症などの全身的な病態も引き起こす。

新型コロナウイルスは、パンデミックとしても「絶妙」なバランスをもった病原体である。高齢者や基礎疾患のある人が重症化する一方で、若くて活動性が高い人は無症状や軽症例が多い。感染者は発症前から感染力をもち、無症状でも他者に感染させる可能性がある。そのため、より効率的に宿主間を伝播しながら、社会の中で蔓延していく。SARS、MERSほど高くない死亡率でも、パンデミックであるが故に、感染者の増加とともに重症者の実数が増え、医療体制に重大な危機を生じてしまうのである。

経済活動を再開してきた中で、冬が到来した東京も大きな流行の波を迎えている。多くの感染者の発生が続くことで医療現場は逼迫し、通常医療との両立が困難な状況となっている。新たなワクチンへの期待が膨らむ一方で、欧州では感染力を増した変異種が出現するなど、新型コロナウイルスとの闘いは、まだ数カ月後の姿さえ見えていない。しかし、過去の長い歴史において、終わりのなかったパンデミックはない。私たちが人類の叡智をもって一歩一歩困難を乗り越えていけば、その先にはきっと新たな未来が待っているはずである。

(文責：今村顕史)

感染症豆知識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ INFORMATION

東京内科医会 第37回セミナー 高齢者に役立てたい漢方 ～認知症の諸症状から泌尿器領域まで～

問合先 東京内科医会 TEL: 03-3259-6133

日時▶ 2月11日(木・祝) 10時~16時

会場▶ 御茶ノ水 ソラシティ カンファレンスセンター ルームC

※会場講演とWeb配信とを併用したハイブリッド型講演会

プログラム▶

- ①「漢方概論と高齢者関連領域の漢方」加藤士郎(筑波大学附属病院 臨床教授 野木病院副院長)
- ②「脳科学の進歩と臨床応用(脳内ネットワークからみた漢方薬の効き方)」
仁井田りち(慶應義塾大学医学部精神・神経科学教室 特任助教)
- ③「呼吸器疾患の漢方」加藤士郎(筑波大学附属病院 臨床教授 野木病院副院長)
- ④「腹部領域の漢方治療」鳥居 明(鳥居内科クリニック院長(東京内科医会 常任理事))
- ⑤「高齢女性の味方になる漢方治療」岡村麻子(つくばセントラル病院)

参加費▶ 会員4,000円、会員外(医師会員)6,000円

取得単位▶ 日本医師会生涯教育制度2.5単位、
日本臨床内科医会認定医・専門医制度5単位

第447回 国際治療談話会 例会 「総合診療—これまでとこれから」

問合先 (公財)日本国際医学協会 事務局 東京都世田谷区上馬 1-15-3 MK三軒茶屋ビル3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: <http://www.imsj.or.jp/>

日時▶ 1月28日(木) 18時30分~20時30分 形式▶ Web講演

開会挨拶▶ 石橋健一((公財)日本国際医学協会 理事長)

司会▶ 山崎 力((公財)日本国際医学協会 理事)

【第1部】

講演▶ I「総合診療の現状と将来予測」大平善之(国際医療福祉大学医学部総合診療医学 主任教授)、II「仮説形成的推論モデルに基づく診断推論方略—プライマリ・ケアでの誤診を減らすために」太田光泰(横浜市立大学医学部医学教育学・総合診療医学 教授)

【第2部】

感想▶ 「ポストコロナ時代の経営戦略」植草徹也(ボストン コンサルティンググループ マネージング・ディレクター&シニア・パートナー)

申込方法▶ 右記QRコードまたは当協会ホームページからお申し込みください。

会費▶ 無料

取得単位▶ 日医生涯教育制度1単位(カリキュラムコード: 15、73)



第123回 慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー

問合先 慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内 生涯教育研修セミナー事務局
TEL: 03-5363-3611 E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp

日時▶ 2月27日(土) 15時~17時50分(予定)

方法▶ Web配信

講演会▶ 「データ×AI時代を考える」

モデレーター▶ 陣崎雅弘(慶應義塾大学医学部放射線科学(診断) 教授)

参加対象▶ 慶應義塾大学医学部、三四会、慶應医師会、慶應義塾大学関連・紹介病院、東京都地区医師会に所属する医師

取得単位▶ 日医生涯教育制度参加証交付2単位(カリキュラムコード: 9)

※参加費無料・事前登録制(お申込多数の場合は先着順となります)

※詳細は慶應義塾大学医学部のWebサイト(<http://www.med.keio.ac.jp/>)の「ニュース」にて後日お知らせします。

次回▶ 6月26日開催予定

医師国保からのお知らせ

医師国保に加入しましょう!

～医師国保は都医会員の相互扶助を行う国民健康保険です～

- 新たに東京都医師会に入会した方
 - 現在区市町村国保の保険証をお持ちの方
 - 退職等により共済・組合健保等の資格を喪失した方
- は、ぜひご家族や常勤の従業員の方と一緒に加入してください。

各種届出に必要な書類は、ホームページよりダウンロードできます。

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

地区医師会長からの一言

区民に寄り添う医師会でありたい

浅草医師会長 堀 浩一郎



この文章を執筆している2020年11月、日本は未だ収束しない新型コロナウイルス感染症と闘っている最中です。この冬、新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの鑑別をいかにするか、発熱患者がかかりつけ医へ相談するような仕組みづくり、季節性インフルエンザワクチン接種の優先順位等、いつもの秋とは全く違った様相を示しています。また日常生活でもストレス発散の場がなく、重い空気がのしかかっています。

佐々木聡前浅草医師会長の後を受けて、2020年6月に公益社団法人浅草医師会第11代会長を拝命しました。重責ゆえに身が引き締まる思いです。

東京オリンピック・パラリンピックを迎えるための準備から一転して、新興感染症への対応に追われた東京都医師会の執行部はさぞ大変だったことと思います。次々とやってくる新しい情報を整理し、それに対応した計画を作成し実行に移す。そして地区医師会・都民・マスコミに対して情報を発信し、協力を得る。この度は尾崎治夫会長率いる東京都医師会の発信力の強さを改めて実感した次第です。

地区医師会は会員に情報を提供しますが、その重要性の濃淡が伝わっているかを把握できていないのが現状だと思っています。理事会で長い時間協議した議題であっても他の議題と同じように周知されます。浅草医師会執行部では、「浅草医師会SNS」を使用して上部からの通達事項に目を通し、会員が容易に理解できるような鑑文を作成して添付し、会員に周知しています。今後さらに会員に分かりやすく、迅速に情報を伝える手段を考えていきたいと思っています。

2018年、浅草医師会は下谷医師会と協力して、台東区の医療・看護・介護・リハビリテーションの各団体の方向性を一つにし、区民のために切れ目のない社会保障を提供するべく、「たいとう地域包括ケア推進協議会」立ち上げました。各団体がたいとう（対等）な立場で垣根を作らず、たいとう（台東）区の方々に寄り添うという理念で命名しました。浅草医師会は1997年から「台東区の在宅医療を考える会」を開催してまいりましたが、発展的にこれを解消し、2018年より「たいとう地域包括ケア推進協議会」主催による「たいとう地域包括ケアフォーラム」としてリニューアルし、医療従事者から区民に発信する会を継続しています。

2020年11月17日に開催された「第23回浅草医学会」は、初のハイブリッド形式で安全を配慮して開催されました。1998年、当時浅草医師会長だった故野中博先生が立ち上げられた「浅草医学会」は、地域医療に携わる皆様と顔を合わせながら連携を深めることを目的とした、医師会から発信する大切な場になっています。新入会員の先生方からもご演題をいただき、新規開業医の先生が得意とされている分野、新入職された病院勤務の先生の専門領域をお聞かせいただくこともでき、病診連携・診診連携においても重要な役割を担っています。

故野中博先生は私が執行部に加えていただいた20年も前から、「住み慣れた地域で、自分らしい生活が最期まで送れるよう寄り添っていくことが大切」と語られていました。未だに色褪せないこの金言を肝に銘じ、地域医療に貢献できる医師会活動を続けていきたいと思っています。

頌 春

東京都医師会長 尾崎 治夫



お正月

板橋区医師会 大畑隆郎